（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスのそみ
○保護者評価実施期間	2024年11月25日　～　2024年12月21日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）34人　（回答者数）32人
○従業者評価実施期間	2024/11/25　～　2024/12/10
○従業者評価有効回答数	（対象者数）5人　（回答者数）5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月1日

○ 分析結果

	事業所の強み（○）だと思われること ※より強く、多数を占めた項目にご判断されることを	工夫していることや提案内だけている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもたちとじっくりとの接触 事前や学校以外の場所で近くして通こえる、心理的安全性を感じられる空間、環境作りを意識している。	・子ども達との信頼関係を築く ・自由時間の確保（例：特別であっても、朝からベースで過ごせる時間を設けている） ・空間の構わり（プレイルーム、休憩スペース等）	・自分らしく居られる空間作り ・特性の理解を深める ・安心、安全に寄りそう的な本人環具配置を行う
2	・野外活動や自様々な経験や体験 様々な場所へ出かける事しき、興味関心を広げる、経験や学び ・外出先でのルール（マナー）を学べる機会としている。	・外出先が着らしくなっている ・興味関心を広げるとともに余暇や規則に関する考えや行学びる ・交通ルールを学び、安全確認や余年子と意識づけをしている。 ・公共交通機関の使用、乗車券やICカードを使用する機会を作る。	・公共交通機関を使用した外出の機会を増やす。 ・卒業後の通所や就労のイメージが持てるような場所への外出機会を作る。 ・子どもたちと一緒に外出先を決めたり、話しあう場を作る。 ・経験時や外出先でのマナーの徹底。
3	・社会性を身につける 人との距離感やコミュニケーションの向上、お金の使い方（金銭の計算など）、自己選択や自己決定の機会とする。	・集団活動、集団遊びに、当園活動等で他者と関わる機会を作る。 ・買い物体験等を通じて、金銭の理解を学ぶ。 ・自己理解を深める。 ・失敗、成功体験からの気づきを得る。	・買い物の場合や実際的なので、継続性を持って取り組む。 ・SSTに取り組む

	事業所の弱み（△）だと思われること ※事業内の課題や改善が必要だと思われることを	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	研修制度が整っていない	・必要な研修を受講出来ない、年間計画に当てはめられていない ・学び内容が偏ってしまう。日々の経験や対応から判断、対応していることが多い。 ・職場間の知識、スキルのバラつき ・利用者の特性やニーズの共通理解が図られていない	・長期的な行われている研修に加え、必要な研修を段階的に学ぶ（例：研修内容、講義（理解）、応用まとうべ一ん化）を行う。 ・様々のスキルアップ、知識の向上を目指す。 ・発達障害支援士、発達障害支専門支援士の取得を目指す。 ・職員間の共通理解、支援の方向性を合わせていく その他 ・子どもに適切かつ可能その支援計画をより深く意識しながらこう支援を行っていくには検討が必要。
2	性質等の強化（職務、児童とも）	・職員が性質向に対する知識を深められていない ・距離感を近えた児童、その影響へのアバイスや相談を積極的に行えていない	・性質等の知識を深めるための勉強会を実施していく。 ・性についてだけでなく自己理解、他者理解にも関が及ぶ、知識を深めていく。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスのそみ	公表日	2025年　2月　25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していること	評価が低い項目について
環境・体制整備	1	利用定員が知識支援等のスペースとの規模で適切である。	○		集団で活ることいスペース、個別で取り組むにくい設備対応の要が他の場所を確保している。	・子ども達がリビスペースで遊んで下校に取り組めるスペースとしてのスペースを作る必要がある。
	2	利用定員やこともの状態等に対して、職員の配置数は適切である。	○			子ども達の安全安全の観点から見るとより支援の必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている。また、安全確保や衛生面、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされている。	○		出入口の前が2段階になっていて、下駄箱で靴を置き、ちょっこの段を降りるとすぐ靴を履く動作の為、家用の靴の置き場がない。 即内に荷物がいっぱいになりやすいにくすをしているのでリノアなどしている。	・プレイルームでの切り分けないので、子ども1かがそれぞれ別の遊びをする場合は構造化るの必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、こどもの身の回りの片づけ空間となっている。	○			高校生等、子ども達の年齢によって余暇用の環境に相応なりとを増えていくかもしれない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の感覚や環境を使用することが認められる環境になっている。	○		個室がある、必要に応じて使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、こどもの意見が参画されている。	○		職務間で適に目ミーティングをおり話合の場を持っている。	パートスタッフにての職務時間にいたります。話し合いの場はさんと持てている。
	7	保護者向け評価票において、保護者等の意向等を把握する取組を実施しており、その内容を業務改善につなげている。	○			面談等で保護者からの話を聞く機会や自己評価やアンケートを実施している。しかし、それ以外での意向調査はけっていない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげている。	○		適に1回ミーティングの時間を設けて把握の事、業務内容等について それぞれ意見を出し、改善点やこれは職務のどうていくかを決め実行している。	
適切な支援の提供	9	適切にアセスメントを実施している。	○			
	10	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもや保護者の二人や関係を客観的に分析したうえで、放課後等デイサービス計画を作成している。	○		日頃の会議などで職務時との情報共有や個性に応じ、いの成にいる。 支援計画では子ども同士や関係に関わったり、保護者とプロクラムに個別の支えるこうの考えている。また外部への応援は今年度内に行うます。	支援計画を職員入ると全員で作成しないようご複数の職員で話し合いながら作成している。
	11	放課後等デイサービス計画は、放課後等デイサービスガイドライン（以下「放課後等デイサービスの提供ガイド支援と書」）「厚労支援」「即行支援」及び「地域支援・地域連携」の4つの支援内容の観点をふまえて、こどもの支援に必要な項目が適切に設定されている。	○			
	12	放課後等デイサービス計画は、保護者や関係機関の参画を得た、計画に沿った支援が行われている。	○			
	13	活動プログラムの立案をチームで行っている。	○		土曜日や長期休みのプログラム、また月ほは必要に応じてそれぞれ担当職員がリーダーがの企画している。	
	14	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	○		当日のプログラム内容を書き込むカレンダーを作り、同じ場にに同じプログラムが重ならないようにしている。	
	15	こどもの活動に関わる様々な情報について、それぞれの支援の内容や状況が職員間で共有されている。	○		申込書や面談で把握した事前で、その日のおよび児童対応、注意する場面等を共有している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドライン（以下「放課後等デイサービスの提供ガイド支援と書」）「厚労支援」「即行支援」及び「地域支援・地域連携」の4つの支援内容の観点をふまえて、こどもの支援に必要な項目が適切に設定されている。	○		HUGシステムの中で記録等を用い、振り返りや共有をしている。	支援計画を職員入ると全員で作成しないようご複数の職員で話し合いながら作成している。
	17	定期にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	○		日頃の会議などで職務時との情報共有や個性に応じ、いの成にいる。 支援計画では子ども同士や関係に関わったり、保護者とプロクラムに個別の支えるこうの考えている。また外部への応援は今年度内に行うます。	必要な研修等は受講していおり、質向上の為の研修を受ける機会はさかない。
	18	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われているか、定期的に検証している。	○			
	19	定期的に会議を開催し、支援内容の検証や、支援方法の共有、職員の技術向上のための研修等を行っている。	○		日頃の会議などで職務時との情報共有や個性に応じ、いの成にいる。 支援計画では子ども同士や関係に関わったり、保護者とプロクラムに個別の支えるこうの考えている。また外部への応援は今年度内に行うます。	
関係機関や保護者との連携	20	児童発達支援センターや保育所等との交流や、地域の色のことなども踏まえる機会がある。	○			
	21	「自立支援」協議会等へ積極的に参加している。	○		西宮市地域自立支援協議会の子ども部会に参加している。	
	22	日ごろから、こどもの状況を保護者と伝えあい、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持てるようにしている。	○		土に送迎時に当日の様子含めて支援の全を共有している。必要に応じて電話や面談の機会を作って共通理解を持てるようにしている。	
	23	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して保護支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っている。	○		面接時に家族支援プログラムおよびいらいの紹介、研修の機会や情報提供等は随時行っている。	
	24	家族等からの子育ての悩みに対する相談に適切に応じ、面談やお便り連絡帳による支援を行っている。	○		電話での連絡、面談等を実施している。	
保護者への説明等	25	定期的に保護者に対して、保護者会等を開催するとともに、こどもの発達の状態や支援内容について説明し、保護者等と共通理解を図っている。	○		保護者から保護者会をしたいという要望がない為に、現在の個別の情報発信をし連絡を取れるようにしている。	
	26	父母や家族の活動を支援することや、保護者自身を理解する等による、保護者同士で交流する機会を自ら行える取り組みを行っている。	○		保護者から保護者会をしたいという要望がない為に、現在の個別の情報発信をし連絡を取れるようにしている。	
	27	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情が速やかに、かつ適切に対応している。	○			
	28	定期的に連絡等を実施することで、HPやSNS等を活用することにより、自己評価や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信している。	○		SNSを活用して活動内容等を広報や知らせている	
	29	個人情報の取扱いに十分留意している。	○		個人情報や載っている書類は鍵付き棚で管理している	
	30	障害のあることやその保護者との理念の収集や情報伝達のための配慮をしている。	○			
	31	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っている。	○			
非常時等の対応	32	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、災害マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や事業所で周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	○		定期的に訓練を実施している。	
	33	緊急連絡訓練（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に訓練、防犯や感染症訓練等行っている。	○			
	34	事故に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	○			
	35	虐待プレルーのあることについて、医師の指導に基づく対応がされている。	○		指導はしていないが指導書ではなく、保護者からの情報で対応している。	
	36	安定剤服用者に関しては、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる。投薬支援に当たり、安全管理等やりかたの学び支援を行っている。	○			
	37	こどもの安全確保に関して、家族等との連携方法が行われるよう、安全計画に基づき取組内容について、家族等へ周知している。	○			調理実習行っていないが、周知は不十分だと思っている。
	38	定期的に入浴等の事業所内での事故、再発防止に向けた方策について検討をしている。	○			
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	○			
	40	どのような場合にて子ども等で自身保育を行うについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前にわかりに説明して理解を得た上で、原則身体拘束を行わない。	○			

保護者等向け 放課後等デイサービス評価票

公表日：2025年2月25日
事業所名：放課後等デイサービス　児童デイサービスのそみ　　対象人数（保護者）34人　回答者数 32人　回収 94.1%

	チェック項目	はい	どちらかといえばはい	いいえ	わからない	工夫点	ご意見
1	こどもは放課後等デイサービスに通うことを楽しみにしている。	28	3			無理強いすることはない。	児童発達のかたいとは言葉で表現できない子供との対応に悩んでいる。
2	職員の対応は適切であると思う。	31	1			職員の言葉にたいよおをする。	児童発達のかたいとは言葉で表現できない子供との対応に悩んでいる。
3	主活動は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている。また、安全確保や衛生面、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされている。	30			2		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、こどもの身の回りの片づけ空間となっている。	31			1	特に不満はみえる。	
5	こどもの活動や自分に関して、こどもの特性に応じた専門的な支援が適切に行われている。	27	3	1	1	いつも専門的に応じた対応、支援をされている。 いつも専門的な対応、専門的な支援をされている。	子ども自身の特性理解の為、専門的な知識やスキルが必要だと思います。
6	保護者が望むような専門的アドバイスや支援内容を具体的に示してくれている。	28	2		1	子ども自身の特性理解の為、専門的な知識やスキルが必要だと思います。	
7	こどもの成長や自分に関して、こどもの特性に応じた専門的な支援が適切に行われている。	31	1			子どもの特性に応じて行ってくれています。	
8	保護者が望むような専門的アドバイスや支援内容を具体的に示してくれている。	28	2		1	相談時にわかりやすい説明をしてくれます。	
9	放課後等デイサービスは、通常学校やこどもの居場所とは異なる、非常に良い刺激と環境になっている。	28	3			特に問題ありません。	
10	放課後等デイサービスは、こどもと保護者にとって安心できる場所である。	28	1		2	特に不満はありません。	
11	放課後等デイサービスは、通常学校やこどもの居場所とは異なる、非常に良い刺激と環境になっている。	7	7	8	10	通常学校やこどもの居場所とは異なる環境はありません。	
12	事業所を知り合いに紹介したいと思う。	31		1		とても丁寧に接してくれます。	
13	「放課後等デイサービス計画」をもとに、こどもや保護者の目的が行われている。	32				特に不満等はありません。	
14	「放課後等デイサービス計画」に基づき適切なプログラムが行われている。	29	3			特に不満はありません。	
15	学校とこどもの状況等を相互に伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解ができている。	30	2			毎日電子ノートにて連絡をしてくれます。	
16	定期的に、保護者が参加できる行事を適切に行っている。	29	3			いつも丁寧に対応してくれます。	
17	保護者の悩みや相談に対して、適切な助言をしている。	30	2			いつも丁寧に対応してくれます。	
18	保護者同士の交流を深めるための活動や、保護者会などの開催に努めている。	11	7	6	9	いつも丁寧に対応してくれます。 いつも丁寧に対応してくれます。	保護者会の開催は難しいかと思います。
19	子どもや保護者からの苦情に対して、迅速かつ適切に対応している。	29	3			子どもの心理に対応してくれます。	
20	「個別の支援計画」や「こどもの状況」に関する情報を保護者にわかりやすく伝えている。	30	2			子どもの心理に対応してくれます。	
21	個人情報の取扱いに十分留意している。	31			1	特に不満はありません。	
22	緊急時や災害発生時の対応について、保護者に対して日頃から説明や訓練への参加を呼びかけている。	22	9		1	特に不満はありません。	
23	緊急時や災害発生時の対応について、保護者に対して日頃から説明や訓練への参加を呼びかけている。	19	9		4	特に不満はありません。	
24	緊急時や災害発生時の対応について、保護者に対して日頃から説明や訓練への参加を呼びかけている。	24	2		6	今後の非常災害訓練の際にはぜひ参加したいです。	
25	緊急時や災害発生時の対応について、保護者に対して日頃から説明や訓練への参加を呼びかけている。	28	1		3	特に不満はありません。	
26	こどもの成長を感じることがある。	32	2			スタッフさんとの信頼関係ができている感じがします。	
27	こどもが楽しそうに通っている。	30	2	1		毎日スタッフさんとの信頼関係ができている感じがします。	行き渋りがあり、楽しそうに通っているとは言えない状況にあります。通所を続けることが難しいと感じています。
28	事業所の支援に満足している。	29	2			いつも丁寧に対応してくれます。	